4 農作業安全への取り組み

テキストページ
P.166～P.167

7) 行政が主体となった取り組み事例：群馬県 対話型研修

- 普及指導員が進行
- コンバインの整備研修（機械安全の確保）とセットで実施
- 専門家も交えてヒヤリハットの共有と現実的な改善策を話し合い
- 普及指導員の協力のもと改善策を整理、法人で周知・実践

整備研修とセット
（企画力は大事）

ヒヤリハット経験
に基づき改善策を
話し合い

【改善例】

対象法人での安全
目標を作成、周知

私たちの農作業安全宣言

農事組合法人　ふじおか

農作業事故“0（ゼロ）”を目指します。

ングを行い、1日の作業計画の確認と危険な作業箇所について情報共有します。

・始業前に作業機の点検を行い、異常箇所があれば速やかに修理・整備します。

・トラクタ運転時には、シートベルトを締めるとともに、ヘルメットの着用を励行します。降車時は前向きに降りないようにします。

・道路走行時には、周辺に気を配り、歩行者や人とのトラブルに配慮します。

教育を受講するなど、安全な使い方を習得しま

や農業者に対しても積極的に情報共有し、地域農業の発展に努めます。

全国農業改良普及支援協会ウェブサイトより

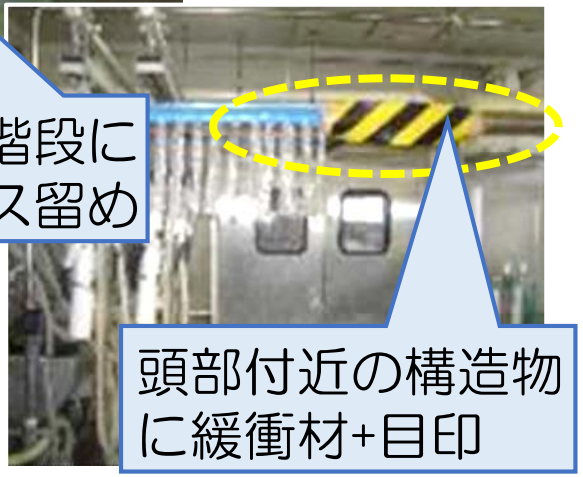
4 農作業安全への取り組み

テキストページ
P.168～P.169

7) 行政が主体となった取り組み事例：網走普及セ 改善啓発

- 普及センターで家畜事故の調査研究チームを立ち上げ
- 管内の事故状況、酪農家のヒヤリハットや具体的対策の事例を調査
- 成果を踏まえて啓発資料を作成、地域運動（後述）と連携して普及

【改善例】



「家畜農作業事故発生防止リーフレット」「家畜労働安全のすすめ」より

4 農作業安全への取り組み

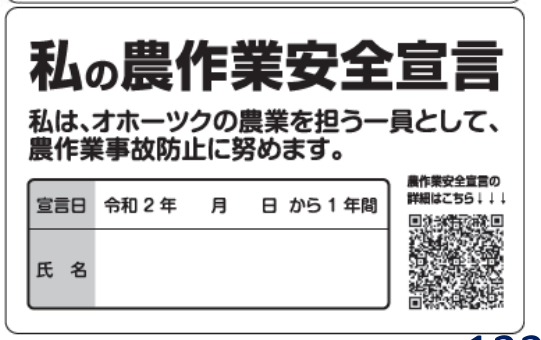
テキストページ
P.170～P.171

8) JAと行政の連携による取り組み事例：オホーツク地区

- 地域のJA、ホクレン、振興局、普及センター（前述）が連携してR2より3年間を「農作業事故ゼロ推進キャンペーン」と位置づけ
- フォーラムを皮切りに様々な情報発信や「事故ゼロ宣言」「安全宣言カード」、JA職員のラジオCMでの呼びかけ、各JA単位での安全啓発等の企画を次々に実施
- 「生産者自らが考え、声を上げ、取り組む」姿を目標に活動

青年部協議会長による安全宣言

安全宣言カード2万部配布



各JAでの参加型の農作業安全活動

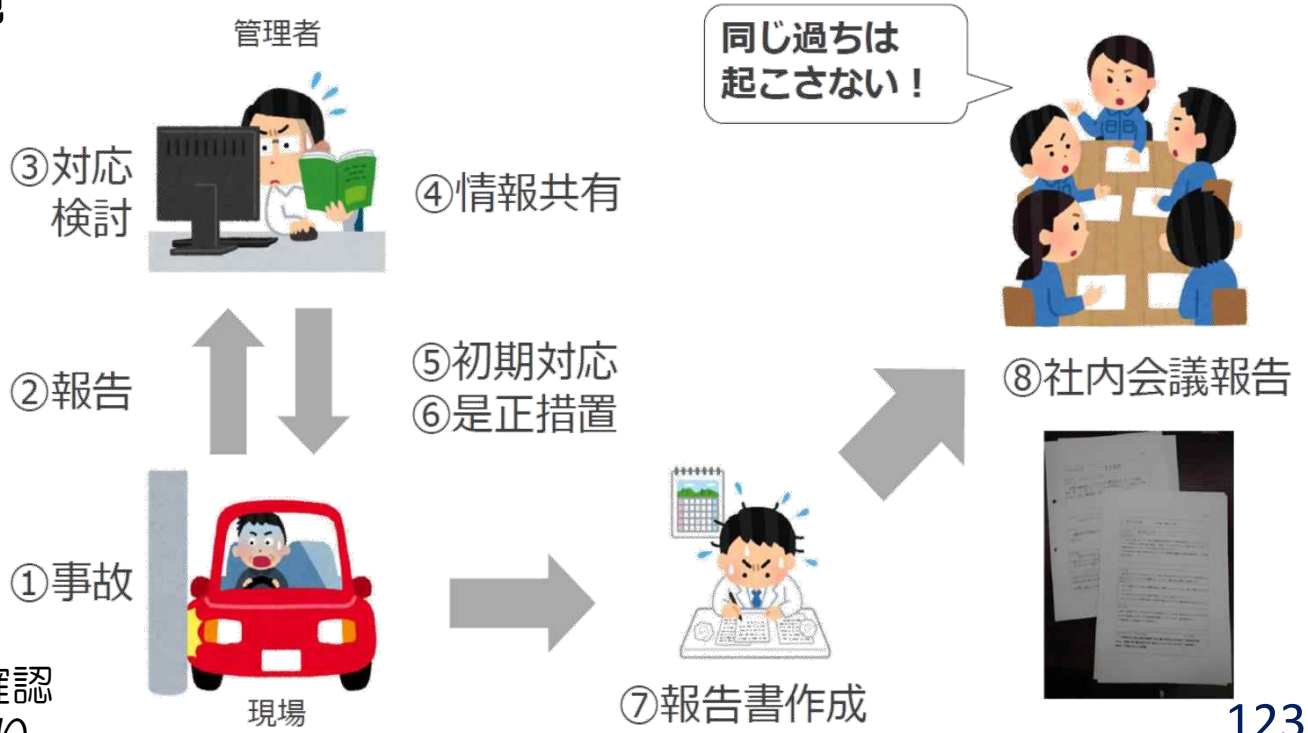
JA職員によるラジオCMでの呼びかけ

4 農作業安全への取り組み

テキストページ P.172

9) GAPでの取り組み事例：(有)新福青果

- GAP認証取得をきっかけに、様々な安全対策の取組を強化
  例）トラブル発生時の対応手順をルール化
  個々の判断でなく皆で初動対応⇒その後事故報告書作成
  ⇒上司が再発防止策を追加⇒全体で情報共有
- 現在は社内の事故以外の情報も共有し、未経験の事故の予防に向けた取組も実施



R3秋の農作業安全確認運動推進会議資料より

4 農作業安全への取り組み

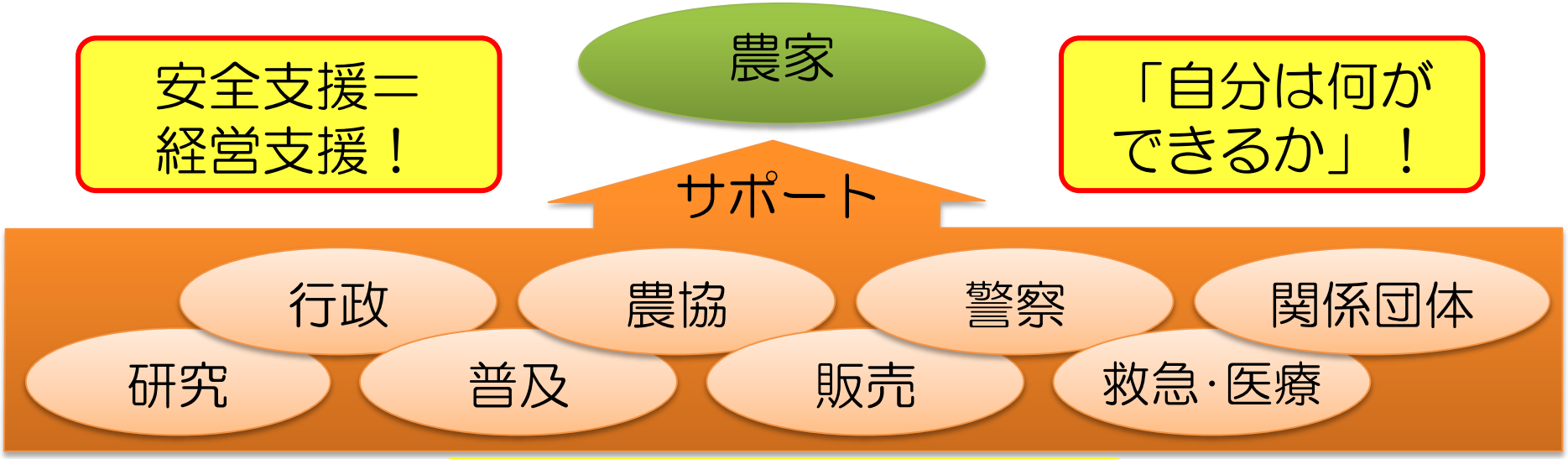
テキストページ P.161～P.172

○農作業は他産業からみても相当危険
　➡ まず現場の危険性を知ってもらうことが重要
○事故は人のせいだけにしていては減らない
　➡ 機械、環境、作業方法の改善につながる発信を
○事故は地域によって傾向や問題が異なる
　➡ 地域で対策を担う人が積極的に取り組めるように

啓発・取組を進化させる！

安全支援＝経営支援！

「自分は何ができるか」！



関係者全体で支える！